

ふたかみ NEWS プチトマト

入所式

はびきの園

前田恵美さんを迎えました。
例年と違いパソコンを使ったリモートの入所式でしたが、学校の担任の先生からお祝いを頂くあたたかいものになりました。
これから楽しい作業所生活を一緒に作っていきましょうね。



ハピバール

今年度は、高坂洸奈(こうさか ひろな)さん、岡脇真琴(おかわき まこと)さんの2名が新しく仲間入りしました！
ますますにぎやかになるハピバール！みなさんぜひ遊びに来てくださいね～！



岡脇真琴さん



高坂洸奈さん

社会福祉法人ふたかみ福祉会

〒583-0856 大阪府羽曳野市白鳥3-16-1 木村ビル4階 TEL 072-959-3221 FAX 072-957-1604

Email: futakami@kagayaku-inochi.com <https://kagayaku-inochi.com/company/>

発行責任者：石本悦二 編集責任者：関口奈緒美



はびきの園 なかまパーティー2021

はびきの園では3月31日になかまパーティーを行いました。

昨年度は新型コロナウイルスの影響で実施できませんでしたが、今年はどうにか実施したい！という気持ちの中職員で考えた結果リモートでの実施となりました。



午前中は各班の出し物を行い、昼からは「ハッピーボックス」でコーヒーやミルクティを飲んで過ごしました。リモートという初の試みでしたが皆さん楽しむことが出来ました！来年は全員で集まってなかまパーティーがしたいです！



■後援会入会及び更新の方々（敬称略）

【2020年度3月】

- ・大西雅子 泉谷利喜三 大伴改太 渡辺博子 以上4口
- ・山下記永 以上2口
- ・山口鋼一 細井聡子 大竹弘之 四方理雄 宮脇紀子 道淵吉則 鳥羽耕造
宮井恵美 寺村義之 以上1口

■寄附金 高川正之様

■ボランティア であい様/畑英作様/細川直幸様/松倉和代様/垣内秀夫様

■アルミ缶回収（3月分） 778kg

ありがとうございました

◆2021年度ふたかみ福祉会後援会入会、更新のお願い◆

法人では用地を確保し、暮らしの場の充実をはかっていきます。

皆様の引き続き日中支援事業所や相談支援へのご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

【個人会費：1口3,000円 団体会費：1口10,000円】 郵便振替口座：00940-5-325894

住むところも、お金もない中でも、生活保護を拒む人たち

この年末年始に開催された「年越し支援・コロナ被害相談村」では、携帯電話が止まり、すでに住まいを失い野宿生活、そして、財産も千円を切っているのに、「生活保護だけは受けたくない」という人が多くいたことが特徴的なことと語られていました。

「生活保護を受けるなら死んだほうがまし」「やっぱし、イメージが悪い」「抵抗がある」「何とか生活保護だけは避けたい」という人が多くなっているといわれています。保護申請を進めるもなかなか応じず、時間を要することが増えたともいわれています。

「憲法25条と生活保護制度」

25条1項「すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する。2項「国は、すべての生活部門について、社会福祉、社会保障及び公衆衛生の向上及び増進に努めなければならない。」と書かれています。生活に困った場合、その原因が

どうであれ、保護対象とするというのが当然のことといえます。

生活保護の利用要件を満たす人のうち現実に利用している人が占める割合を生活保護の捕捉率といえます。その捕捉率は、ドイツで64%、フランスで91.6%、イギリスで47%、スウェーデンで82%と語られており、日本の捕捉率は15.3%から18%と推計されています。このように低い捕捉率は、日本において、生活保護がその機能を十分に発揮しているとはいえない状況にあるといえます。

「新型コロナウイルス禍の中で」

新型コロナウイルス感染拡大の影響で生活に困窮する人々への支援をめぐり、菅首相は「最終的には生活保護という仕組み」があると述べました。日本弁護士会によると、憲法25条が保障する「健康で文化的な最低限度の生活」を権利として具体化したものであり、生活保護制度が社会のセーフティネットの役割を果たしていると述べて

います。しかし、現在の状況は、生活保護を申請することさえも戸惑う方が多くいます。

「公立病院の病床削減が進められている」

新型コロナウイルスの感染拡大がおさまらない中、医療体制もひっ迫しています。憲法25条に「公衆衛生の向上及び増進に努めなければならない」と明記されています。しかし、保健所機能は年々低下し、公衆衛生を担う保健所の数は1992年の852か所から2020年1月には469か所に削減されています。また、地域の総合病院として感染者を受けてとめている公立病院の病床削減が進められています。医療供給体制がひっ迫している中、病床削減に補助金を出しています。これからも、政府は、再編・統合を促す予定の公立・公的436病院のリストを作り公表することも考えており更なる病床削減が進められます。病床が減ると、それに合わせて、医師も看護師も減ることになります。新型コロナウイルスの感染拡大が治まらない中でです。

「私たちのめざすもの」

ふたかみ福祉会は、「かがやく命を大切にする社会をつくり出す」の理念のもと、日本国憲法でうたわれた、平和と、個人の尊厳を大切に、権利が保障され、地域の中で自立した生活を営むことができるよう、多様な福祉サービスを通じ、利用者が、安心して暮らせるよう支援することを定款（法人の根本原則）の第1の目的に掲げています。

障害があっても一人の主人公として、人間としてたくましくゆたかな人生と一緒に築いていきます。障害のある仲間たちの「働きたい」「友達と楽しく暮らしたい」という願いを真ん中にして、私たちが「何のためにどんなことをやりたいのか」を一緒に考え方向性を示し、そのねがいや要求を実現するための条件を作っていきたいと思っています。

（石本）

第二回障害福祉基礎講座

今回の研修では、障害者総合支援法や報酬改定についての講義とグループワークでの学習を行いました。

福祉施策のこれまでの流れや、現在ある福祉サービスについて、自分自身が理解しきれていなかったことを学ぶことができたが、自立支援法を改正した、この法自体が「行政や国の都合のいいものにされていないのか」と、今回の講義で感じました。

障害者総合支援法が作られる過程では協議会が行われ、その中には充実した制度を求める当事者も参加していたそうです。しかし、実態は厚生労働省によって、当事者の声はほとんど削られてしまい、当事者の方たちの思いは反映されず、基本的構造が自立支援法とあまり変わらない法律として創設されました。

障害者総合支援法の中に、サービス利用の手続きの際に決定される障害支援区分というものがあります。これは区分の低い方に比べ、区分の高い方は多

くのサービスを受けることができるという制度になっています。この障害区分の調査項目は多様で、多くの支援を必要としているのにも関わらず低い区分で支給決定となり、受けられるサービスが制限されてしまうというケースが起きているように思います。さらに、サービスを受けるのに1割の金銭負担もあるため、当事者やその家族への負担も膨らみます。こうした支援の抑制により、行政の公費を削減し、財源のコントロールを行うようにできています。

研修を受け、このような制度の中身に多くの疑問を感じましたが、今の政権は『自助・共助』を謳い、国は何も守ってはくれません。きょうさんと一緒に、なかまを守ってくれる制度や社会に変えていかなければならないと私は思います。

私自身、まだまだできることは少ないですが、今回の研修で学んだこと、感じたことを日々の実践に活かし、ふたかみ福祉会のなかまが輝ける場所をたくさん作っていききたいと思っています。

（寺村）

ハピボール

おつかれさま会

2020年度の頑張りをもみなでねぎらう為に、お疲れさま会を行いました。どんなことがしたい？話し合いを行うと、『オシャレしたい』との意見が女性たちから上がりました。また、ゲームをしたいとの声も。『それでは、パーティにするゲームって何？』との質問に、『ビンゴ!!』との意見。そこで、1部をファッションショー、2部をビンゴ大会と1年の振り返りとして、写真をみんなで見る事になりました。前日から、『どんな服にしようかな?』『明日、楽しみやあ』と待ち遠しい声が聞かれました。お疲れさま会時は、いつもとは違った雰囲気の中仲間たち。1部のファッションショーでは、密を避ける為、廊下をランウェイに見立てて、スマホとパソコンのカメラで撮影。その映像をみんなの部屋で視聴すると言う形をとりました。テレビで見えるようなファッションショーの雰囲気大盛り上がりでした。



音楽に乗って廊下を歩く仲間の姿はどの仲間も素敵でした。昼食の後は、第2部のビンゴ大会。『景品もあるよあ』の声に『やったー』と嬉しそうな声が上がりました。ビンゴ一番乗りの『よっしゃー!!』と大きな声を上げてくれたのを皮切りに、『揃ったよあ』『ビンゴ』と仲間が続きました。コーヒータムを挟んで、1年の振り返り。今年度は新型コロナウイルスの影響で、取り組みも少なかったですが、入所に始まり、ミニ運動会やボートの取り組み、西浦幼稚園との交流会などなどたくさん写真を見て、2020年度の楽しかった思い出を振り返り、2021年度もハピボールらしく楽しい1年になるように、仕事に遊びに頑張ろうとみんなで締めくくりました。

（大伴）